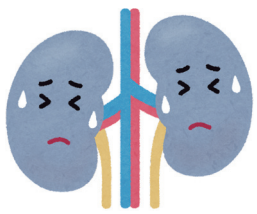
新任医師着任のお知らせ

2023年4月より山末象三医師が大分医療センターから当院に着任致します。
一瀬正志、伊藤健一郎と同様、大分大学循環器内科医局出身の循環器専門医です。
山末医師はその容姿や声からかなり若く見えますが大学卒業後15年が経ち、年齢は40歳、もはやベテランであり性格も穏やかで、きっと皆さんが安心してかかることができる医師であると思います。
現状、待ち時間が長かったり、話をじっくり聞けなかったりなどご不便をおかけすることもありました。また昨今、発熱外来の重要性が増していますがその対応もマンパワー不足で不十分でありました。今回医師が一人加わることによりにそれらの事が少しずつ改善され、皆さんにより満足していただける医療を提供できると考えております。

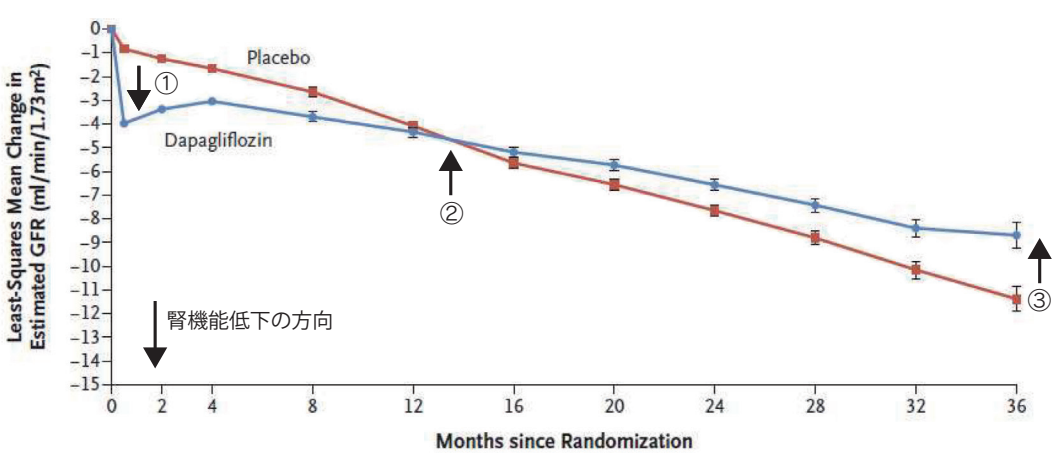
副院長・循環器専門医　**山末象三**（やますえしょうぞう）
大分県宇佐市生まれ、大分県立中津南高等学校卒業。
平成19年に大分大学を卒業し、研修医を経て平成21年に旧第一内科（現循環器内科）に入局。
その後、大分大学医学部附属病院、別府医療センター、大分医療センター、南海医療センター、アルメイダ病院などに勤務。
主に狭心症、心筋梗塞のカテーテル治療に携わる。
趣味は読書、映画鑑賞、キャンプ等。

腎機能の低下を指摘され、お悩みではありませんか？



～慢性腎臓病（CKD）のお薬について～

現在のところ腎機能の悪化を食い止める「唯一」といってもいいSGLT2阻害薬(ここではSGLT2と言います)をご紹介します。もともと血中の糖分を尿中に排泄させる糖尿病のお薬ですが、近年糖尿病を合併していない慢性腎臓病に対しても腎臓保護効果があることが分かってきました。
グラフは糖尿病の有無に関わらず、慢性腎臓病に対してSGLT2（Dapagliflozin）を投与した群と投与していない群を比較した研究です。



N Engl J Med. September 24,2020より一部抜粋
青線はSGLT2（Dapagliflozin）を投与した群
赤線はSGLT2を投与していない群

このグラフからSGLT2（Dapagliflozin）を投与すると、
①投与後数か月は腎機能がわずかに低下する。
②投与から12か月たつと効果が表れる（投与群の腎機能が上回る）。
③投与して36か月目には改善効果が明らかになる。
ということがわかります。

慢性腎臓病があるとどうしても年々少しずつ腎機能は低下し、中には透析が必要になる方もおられるのですが、図のようにSGLT2を投与した群では長期的には腎機能が下がりにくかったということです。
当院でも元来糖尿病のお薬であるSGLT2を糖尿病のない慢性腎臓病の方にも処方し、**少しでも腎機能悪化を遅らせることを重視**しています。